

◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎適期収穫と正しい調製作業で良質な自給飼料を確保しよう。

<要約>

- ◇ 乳用牛 ～分娩時の事故防止～
分娩予定牛は、清潔で寝起きがしやすい環境で飼育する。分娩時は、経過を注意深く観察し、長時間経過しても分娩が進まない場合には、獣医師に診療を依頼する。
- ◇ 肉用牛 ～繁殖牛の退牧後の飼育管理～
舎飼い開始時は、飼料を急に変えないようにする。配合飼料の給与量は、過肥にならないよう調節しながら、分娩2か月前から概ね離乳までの期間に増加させる。
また、蹄の伸び過ぎは、牛のストレスや疾病の原因となるおそれがあるため、定期的に削蹄を行う。
- ◇ 豚 ～冬期間の飼育管理～
1 寒さによる発育の停滞や飼料効率の低下を防ぐため、すきま風の防止や適切な保温などの防寒対策を徹底する。
2 部外者の農場立入りを禁止し、豚舎の出入口での消毒を徹底する。
また、野生動物の侵入防止に努め、その排せつ物が飼料や飲水に混入しないようにする。
- ◇ 鶏 ～衛生管理～
冬期には高病原性鳥インフルエンザ等の発生リスクが高まるので、部外者の農場立入りを禁止し、鶏舎の出入口での消毒を徹底する。
また、野生動物の侵入防止に努め、その排せつ物が飼料や飲水に混入しないようにする。
- ◇ 草地・飼料作物及び環境保全 ～越冬前の草地管理～
1 経年草地は、土壌診断をした上で石灰や苦土等の土壌改良資材を施用する。
2 たい肥は、十分腐熟させ、土壌改良資材や肥料資材として活用する。
3 とうもろこしサイレージは、カビや二次発酵に十分注意し、適切に給与する。



報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 総括主幹 山田 健司
電話番号	直通 017-734-9496 内線 4814
報道監	農林水産部 次長 山田 泉 内線 4966